

## 7.子ども食堂の開催頻度を増やすには：開催頻度の多い子ども食堂と少ない子ども食堂

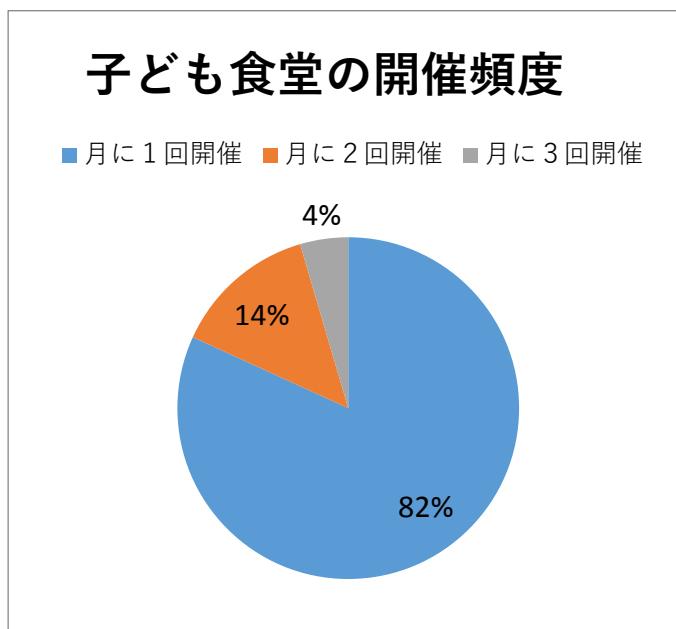
近藤史都

### 1. はじめに

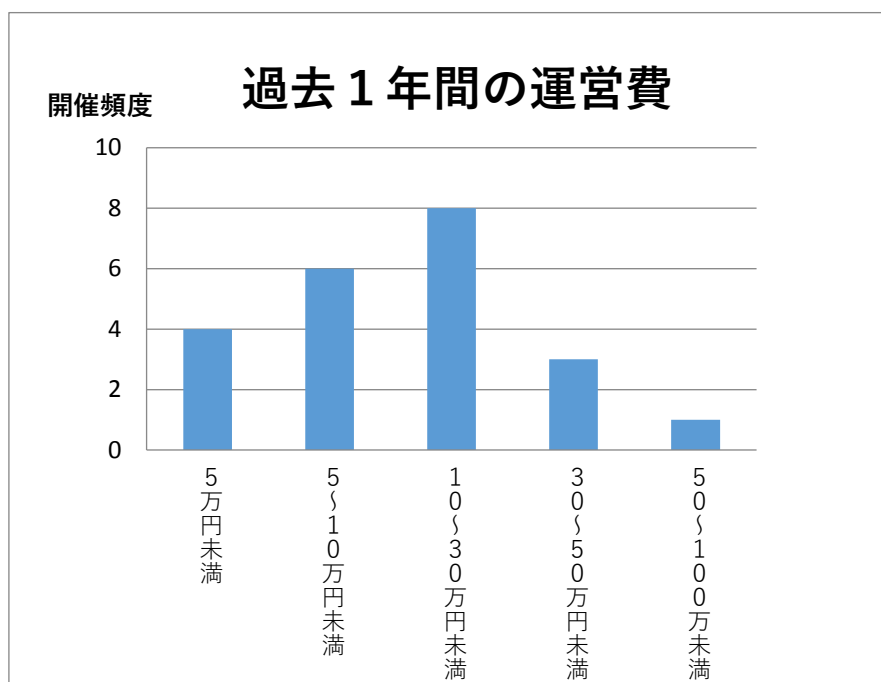
愛知県内の子ども食堂を調査していると、開催頻度が子ども食堂によって様々で、多いところはほぼ毎日やっているなど、ばらつきがある。また子ども食堂の利用者アンケートにも、子ども食堂の開催頻度を増やしてほしいという声が多数あった。そこで開催頻度の多い子ども食堂とそうでない子ども食堂はどのように違うのか調査し、どうしたら開催頻度を増やすことができるか考えてみる。

### 2. 開催頻度とアンケート調査結果

まずアンケート調査を行った子ども食堂の中でどのくらいの開催頻度が多いのか、毎日開催している所を除いてグラフで表してみた。

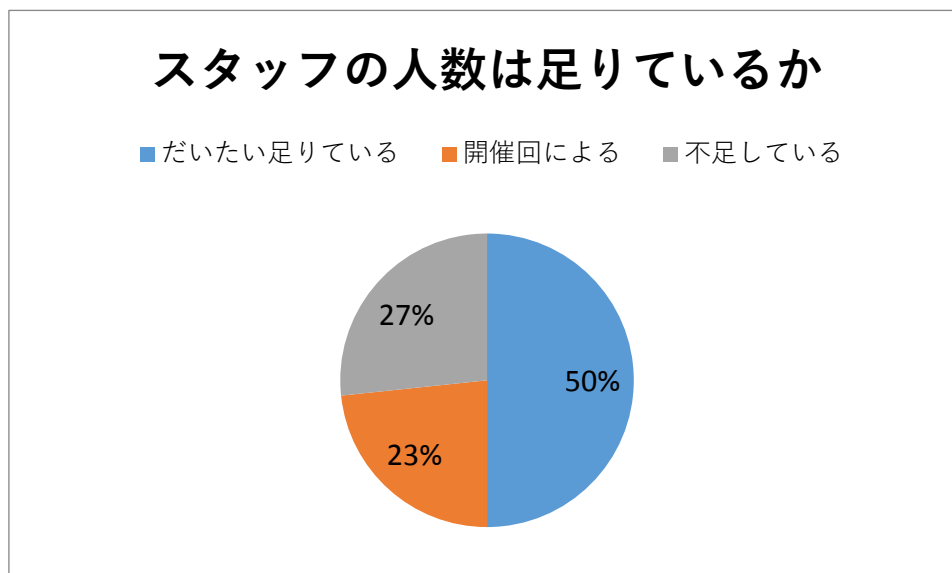


このように調査した子ども食堂の開催頻度は、月1回が82%、月2回が14%、月に3回が4%であり、ほとんどが月に1回というペースで開催していることが分かった。では月1回開催のところと月3回や毎日開催している子ども食堂は何が違うのか。そもそも高い頻度で開催できる子ども食堂は様々な企業や団体から寄付があり、資金面やスタッフの人数などに余裕があるのではないかと考えた。そこで子ども食堂の過去1年間の運営費はどの程度なのか、という質問を見てみる。



グラフを見ると過去1年間の運営費は10～30万円のところが一番多かった。また開催頻度の多い子ども食堂の運営費を見てみると毎日開催しているところは5万円未満であり、月3回開催しているところは30～50万円であった。これを考えると、開催頻度と運営費は特に関係はないように思われる。

次に開催頻度が多いところはスタッフの数に余裕があるのか、開催頻度とスタッフの数に関係はあるのかを考えてみる。

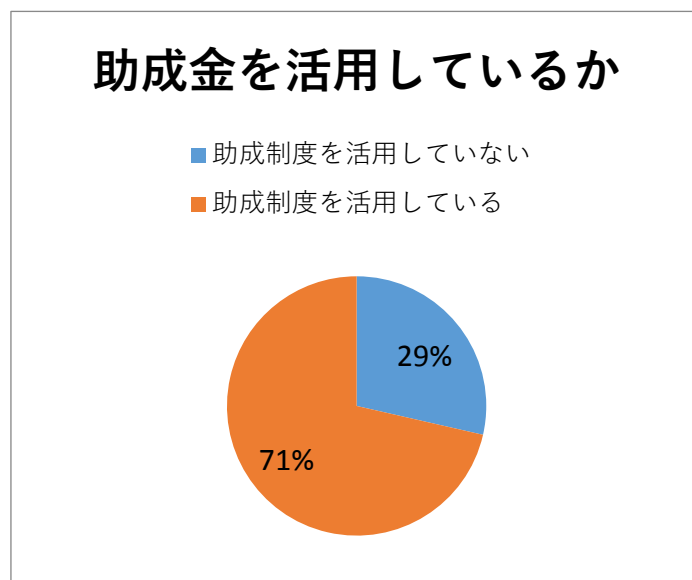


調査した子ども食堂は「だいたい足りている」が50%、「開催回による」が23%、「不足している」が27%であった。そこで、毎日開催している子ども食堂と月3回開催している子ども食堂のスタッフの人数は足りているのかを見てみると、どちらもスタッフの人数はだいたい足りている、となっていた。またスタッフの人数が不足している、と答えた子ども食堂

を見てみるとどこも月1回となっていた。

このことからスタッフが足りている子ども食堂は開催頻度が多く、スタッフが足りていない子ども食堂は開催頻度が低いのではないかと、一概には言えないが考えることはできる。

最後に開催頻度が多いところは様々な団体から助成金などを活用しているのか、逆に開催頻度が少ないところはあまり活用していないのかをしてみる。



グラフを見ると、助成制度を活用している子ども食堂が71%、活用していない子ども食堂が29%という結果になった。次に毎日開催している子ども食堂と月3回開催している子ども食堂を見ると、毎日開催しているところは、助成制度を活用しておらず、月3回のところは助成制度を活用していた。また月1回開催のところも助成制度を活用していた。このことから開催頻度と助成制度を活用しているかはあまり関係がないことがわかった。

### 3. まとめ

ここまで子ども食堂の開催頻度を増やすにはどうしたらよいか考えるために、開催頻度とアンケート調査の結果に関係性があるのか、開催頻度の多いところと少ないところはどのような違いがあるのか考察してきた。しかし、アンケート調査の結果と開催頻度には特に関係性はなく、開催頻度が多いところと少ないところの違いも特に見当たらなかった。今回は子ども食堂の開催頻度に焦点を当ててどうしたら増やすことができるのかを考えたが、開催頻度を増やすことによって運営者の方が負担になりストレスとを感じるよりは、月1回の開催でも長く続けていくことが大事であると思った。